

第 1 群 座長のまとめ

帝京大学 耳鼻咽喉科
鈴木 淳一

第 1 席，第 2 席はシナクリン点鼻薬（1 噴霧中にフルニソクド無水物が 25 μ g 含有）の効果に関するもので，前者は抑制効果の短期的，後者は長期的すなわち予防効果に関するものであった。討論は 2 者まとめて行われた。

第 1 席について，RAST 検査結果との関係を座長が質問した。RAST 値の高い群で抑制良好であったが理由は不明であるとの答であった。

第 1 席と第 2 席両者に対し，金子 豊氏（仙台市）より連日誘発試験を行った場合どうかとの質問について，椿氏より，行ってみないと分からないとの答があった。また，1 年後についての効果も今後の課題であるとのことであった。因みに，シナクリン噴霧には通常のシナクリン点鼻薬が使用された由。

第 3 席，ノイロトロピンネブライザー療法に対する鼻粘膜自律神経受容体の変化について，大越俊夫氏（東邦大・大橋）よりノイロトロピン自体がもつ効果といえるか，また，注射法でも同じかとの質問があった。鼻過敏症状が軽快すれば，他の薬剤でも同じ様な結果が期待できるとの答があった。

大山 勝氏（鹿大）による本法有効例と無効例を比較検討したかとの質問について，今回は全例が本法有効例で，今後さらに検討するという返答であった。

第 4 席は，主として電顕を用い，ネブライザー療法による鼻粘膜の形態学的変化をみる研究であったが，佐藤喜一氏（金沢医大），大山 勝氏（鹿大）よりそれぞれモルモットを用いた場合の実験条件について質問があった。4 匹のモルモットを同一箱に入れ，超高波ネブライザーを用い，一定濃度を吸入するよう試みたとの返答があった。

ヒト下甲粘膜採取のときの局所薬剤使用についての大塚 護氏（国立第 2）の質問について，使用薬は術前，硫酸筋注，ボスミンのスプレーを行ったと答えられた。

第 5 席はエアロゾル化インターフェロンに関するもので，大山 勝氏（鹿大）および座長より，臨床応用の目的について質問があった。特別なねらいがないとすれば，現在，インターフェロンは大へんに高価であるからで，答もそれを肯定するものであった。